

平成 20 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	ソフトインターフェースの分子科学
領域代表者名	前田 瑞夫（独立行政法人理化学研究所・主任研究員）
研究期間	平成 20 年度～ 24 年度
【科学研究費補助金審査部会における所見】 本研究領域は、生体分子、高分子などのソフト材料の界面に形成されて機能の源となる界面圏に着目し、その厚みのある三次元的な場の設計・構築、分子特性の解析に基づいて、それらの知見をバイオ機能の開発に活かすという、挑戦的かつ独創性の高い課題である。物理、化学、生物の学際領域において界面科学に新しい学理を構築するという目的が明確であるとともに、動的な界面であるソフトインターフェースを対象として幅広い研究を結びつける試みは新学術領域研究としても妥当である。計画研究メンバーの実績も十分あり、また、さまざまなソフト材料の界面を「創る」「探る」「活かす」というそれぞれの計画研究の目標設定やそれらの連携についてもバランスよく構成されており、本領域研究によりソフトインターフェースを統括する学理が構築され、バイオチップ等への応用に向けた設計指針が産み出されることが期待できる。今後はさらに、バイオ材料、バイオデバイスのみならずソフト材料全体への展開や人材育成に期待する意見があった。	